

令和6年度北海道別海高等学校評価報告書

次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- (1) 指導の質を高め、基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させる。
- (2) I C Tを効果的に活用し、協働的な学びの充実を図る。
- (3) 教師自らが手本となり、生徒指導提言を活用し豊かな心や創造性を育てる。
- (4) 外部の専門家等と連携した取組の充実を図る。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
総務部	研修会などでPTA役員による参加者が増加した。広報についてホームページの更新が滞る時期があった。	多くの人の目にとまるような方策を改めて考え取り組んで欲しい。
改善方策	行事だけでなく普段の学校生活などをホームページに上げることも必要。教職員全員での意識を持ち積極的に情報発信する。	
教務部	今後の生徒数の減少による間口減に対応できる教育課程を編成することができた。魅力ある学校にするためにも教員の授業力の向上が必要である。	研修を多く行っているが、若手教員も多くより充実した研修を計画して行って欲しい。
改善方策	教員の授業力向上のため校内研修や公開授業研修を充実させて研鑽を積む。	
進路指導部	進路指導の体制作りについて概ね達成された。次年度は、進路指導に関する各種ツールを活用した実践の推進に取り組む。	外部との関わりを多く持つことで進路に対する意識も向上すると思うので、色々な方策をお願いしたい。
改善方策	実践を通じて教職員の進路指導力の向上や、進路指導の質の向上に努める。	
生徒指導部	生徒に寄り添った指導が浸透しており、生徒情報の共有も停滞することなく行われている。一方で、教員個人がそれぞれの指導を行っており、基準が統一されていない。	生徒指導に対して得意、不得意が別れていると感じる。学校全体で取り組んでいって欲しい。
改善方策	生徒情報や指導方針を共有するとともに教員間の目線合わせを図る。	
農場部	酪農経営科の体験入学や看板作成など新たな取り組みを実施することができた。農業特別専攻科の協力により、合同授業を実施でき、専門家の講義を受ける機会が増え、専門的な知識技術の向上を図ることができた。	酪農家などが普通科に行く割合もあり授業など酪農経営科にとらわれず、色々な取り組みや考え方をもち進めて欲しい。
改善方策	農業特別専攻科との連携をさらに密にし、5年間を見据えた教育課程の編成を考えていく。生徒募集の方法を見直していく。	
公表方法	学校ホームページ 学校だより 学校運営協議会	